

# 中越地震から風が吹く 水車小屋『聴風庵』

第10号 2017年5月8日発行

## ミマモルジュ挨拶

ホテルに宿泊客の様々な相談や  
ご要望に応えるコンシェルジュがいる  
ように、保育においても様々な  
ご要望や悩みがあると思います。

「見守る」+「コンシェルジュ」=  
ミマモルジュとして、保育に関する  
ご要望にお応えしていけるよう  
活動していきます。

株式会社カグヤ 奥山卓矢

## ゴールデンウィークの出会い

5月の連休、新潟県長岡市を尋ねました。  
長岡には友人が住んでおり、せっかくのGWということもあり、  
久々に友人に会うべく新幹線に乗り込みました。

約2年ぶりの再会に心躍ったのは、友人に会うこともですが、  
赤ちゃんも生まれその子に会えるのも楽しみにしていました。

そして、もう一つ。友人から「お昼の店、予約しといたよ！」

「聴風庵っていう古民家的なご飯屋さん！」とLineが届き、  
一瞬自分の目を疑い驚きました。「聴風庵!？」

友人との再会もですが「どんなお店なのだろう～」と期待も膨らみ、  
大宮駅から約75分の長岡駅を目指しました。

## 『聴風庵』の歴史

2004年10月23日 17時56分。新潟県中越地方を震源として  
発生したM6.8の地震。避難者約10万人、住宅損壊約12万棟、  
風評被害や上越新幹線の不通等、当時甚大な被害に見舞われました。

そんな中、中越の水害、震災により消失しかけていた柱や板、戸等を  
集め、店主自ら1年余り掛け作ったのが「聴風庵」なのだそうです。

そして、開店記念に見附市長から、「『聴風庵』の『風』と『水』は  
地元石地町の鎮守伊吹神社よりの恵ものである。手掘りした井戸水も  
皆様方に広く利用して頂いたほうがいい」と『伊吹の水』と命名して  
頂いたそうです。



水車小屋『聴風庵』(ちょうふうあん)



豪雨により堤防が決壊



聴風庵の外観



伊吹の水



手打ちそば定食

井戸は 25m以上店主自ら掘り、水車も手作りし、水車が廻り杵を動かし、白で搗いたつきたてのお餅を提供しているそうです。

周りは田んぼだらけの田舎道にひっそり佇む 1 軒のお蕎麦屋さん。震災から立ち上がるシンボルのようにお店を構えていました。

---

## おもてなしメニューの数々

---

突き出し：よもぎ大福・お茶

小鉢：11 種類の季節に合わせた料理

天ぷら：山菜とカボチャ、サツマイモの天ぷら

そば：井戸水でしめて打った二八そば

---

## 聴風庵を通して感じること

---

5 月初旬、まさにこれから田植えがはじまる季節。店内に飾られた写真には、田んぼが一面に広がり、みどり色の海の中に 1 軒のお店が浮いているように見えました。

風に揺れる草木、水の音や初夏の日差しに優しく吹く風。

ここにしかない、ここだから味わえる風景が広がっていました。

友人に福岡にある古民家『聴福庵』の話をしたことはあったものの、まさか連れて来てくれた店の名が『聴風庵』ということには驚きました。友人も『聴福庵』という名のことは覚えておらず、「祖母に前に連れて来てもらったことがある」ということで、この店にしたと言います。

小鉢の一つひとつどれもが色鮮やかで、お店の方から「田舎料理だからこんなものしかないの。東京にはないでしょ～」と言いながら、お膳に乗せ運んできてくれました。



井戸水でしめて打った手打ちそば



囲炉裏でゆったり談笑

## お問い合わせ先

株式会社カグヤ

東京都新宿区西新宿 3-2-11

新宿三井ビルディング 2号館 10階

tel:03-5909-7155

確かに東京にはなく、でも、ここだから味わえるもので、空っぽになった小鉢も色とりどりで並んでいるだけで見えました。

生後5か月の赤ちゃんは、ずっとご機嫌で泣くこともなくニコニコしていました。店の方からも「かわいいね～、いくつ？」と声を掛けられたり、見知らぬおじいちゃんやおばあちゃんからもよく声を掛けられると友人は言います。

赤ちゃんが生まれこれまでと環境も変わった友人。そして私も『聴風庵』を通して『聴福庵』のことや仕事の話をしたり、昔話を思い出しては笑いあったり、あっという間のひと時でしたが心地のいい時間を過ごさせて頂きました。

耳を澄ますと蕎麦の香りや蕎麦をすする音、天ぷらを頬張ると口の中でサクサクする音、そして赤ちゃんが笑う声も聴こえてきます。

そう思うと福岡にある『聴福庵』に来庵した方はどんなことを感じているのでしょうか。行くたびに変化し続ける『聴福庵』に毎回、私自身も驚かされ、同時に新たな発見がいつもあります。

『聴風庵』の店主は中越地震を機に自分の手で井戸を掘り、水車を作り日々蕎麦を打ち始めたそうです。その想いに触れると、名前が似ていること以上の親近感を覚えます。

そして、初めて行ったお蕎麦屋さんなのですが、初めての気がしない不思議な感覚がありました。5か月の赤ちゃんも知らない所に行くと泣くと言っていたのですが、泣くことなく終始ニコニコしていました。

震災によって倒壊した家々の柱や板を、店主によって再び人を招きいれる場で活かされ、柱や板が喜んでいるからのように感じました。

震災から生き方を見直した方がここにもいて、人が集まり、おいしい食事に笑顔溢れるのが『聴風庵』だと感じました。『聴福庵』では、来庵した方がぬくもりを感じ、安心した気持ちになる。そんな家を目指していきたいと『聴風庵』を通して感じました。

(報告者：株式会社カグヤ 奥山卓矢)